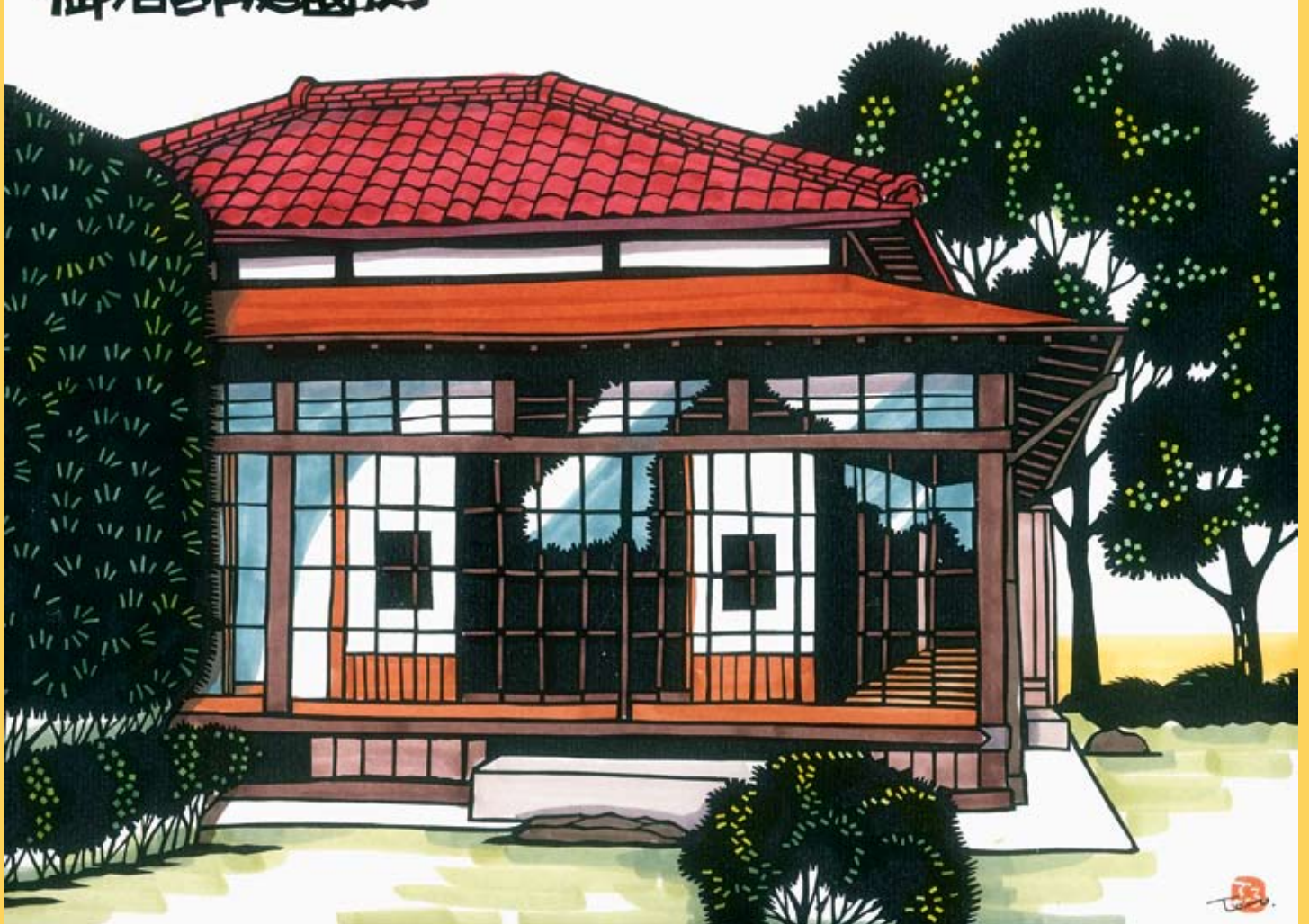


しのぶぴあ

No.30
2008
AUTUMN

特集 ありがとう！のマジック
共にささえあう豊かな地域を目指して

御倉邸庭園側



表紙紹介（御倉邸／旧日本銀行福島支店長役宅）

日本銀行福島支店の役宅として昭和2年に建築されました。
名称を「御倉邸」とし、平成13年4月御倉町地区公園として開園しました。

周辺は、福島藩などの米蔵や船着場があった場所で、歴史を感じることもできる地域でもあります。そんな時代の趣を感じながら、切り取ってみました。



若い頃 夫の仕事の関係で中国に住んでいました。終戦直後の混乱の中仲間たちと朝鮮半島を経由して日本に引き揚げてきました。ロシア軍に見つかないように仲間とはぐれないように1本の紐を数多く持ち夜中にひたすら歩き続けました。励まし合い、助け合いながら無事に日本の土を踏むことができたのはその時の仲間がいたからです。(80代女性 無職)



▶いまでも忘れられないありがとうですね。

手書きの手紙をもらった時 本当に心があつたります。自分のために貴重な時間を費やし書いてくれた事にありがとうの気持ちがいっぱいになります。その思いが自分を元気にしてくれます。(30代主婦)



▶ほんとにこのご手書きの手紙は貴重ですね。ぬくもりがじかに伝わりますね。

子供が幼かった頃 スーパーで落ちてしまった片方のつむぎを拾った方がわざわざ探し出して声をかけてくださいました。「昔自分も同じような経験をしてすごくありがたかった」とのことでした。その後私も同じ場面に遭遇して落とし主の方に「以前拾ってもらって助かったことがあったんですよ」とひとこと添えることができました。その方も、いつかどこかで誰かにそのひとことを言える機会があれば嬉しいと思います。(30代主婦)

▶ありがとうのリレーですね!



都心から福島に移り住んで精米したてのごはんのおいしさを知りました。農家の方々ありがとうございます。(60代主婦)



ひとり暮らしを始めて実家から送られてくる野菜や食糧がありがたい。下ごしらえしてあったり、シシトウが入っていたりすると心からありがとうございます。(20代女性・会社員)



▶ふるさとの恵みはでっかいです。

教科書を忘れた時に貸してくれた友だちにありがとうございます。(11歳女子)



友だちが僕のジャンパーや持ち物を持って来てくれたとき。(14歳男子)



▶その気持ちを忘れずにね。

買い物に立ち寄ったお店のご主人が笑顔いっぱいこつちまであたたかな気持ちになりました。(50代女性・自営)



▶つい、いっぱい買っちゃいます。

とりあえず今朝 目がさめた事、生きてる事に感謝です。(40代男性・自営業)

波乱万丈だった息子が毎月食費を入れてくれます。そのたびにありがとう。(50代女性・パート)

▶このありがとうは深いですね。



あなたがありがとう!と思わず言いたくなるのはどんな時ですか?
あなたの心があつたまたいろいろ瞬間をコレクションしてみました。

私たち一人ひとりには性別・年齢・地域・文化・学歴・ライフスタイルなどのさまざまな背景からなる個性があり、考え方や価値観は多様です。そのような中で、毎日いろいろな方と出会います。一人ひとりの多様性*があることを理解し、誰もが互いに人権を尊重することは、生活をしていく上でとても大切なことです。
「相手を思いやる」「思いやりの心」というのは、相手の多様性を受け入れようとする心のあらわれがもれません。それはあたたかい気持ちを伴い、次から次へと「輪」のようにつながっていくのではないのでしょうか。そんな「ありがとう」を虹色の花束のようにまとめてみました。

*多様性 (ダイバーシティ) diversity

年齢・性別・経験・知識・立場・国籍などさまざまな背景からなる個人の考え方や価値観の違いを理解し、尊重すること。



テレビを見てもらい立きしていた私に1才の娘がティッシュを持ってきて涙をふいてくれました。(30代主婦)

子供のひとこと「ママ、今日もお弁当おいしかったよ!」まさに魔法の言葉、今はこのひとことがとってもうれしいね。(30代主婦)

▶ひとつの言葉で元気が出るから不思議。



共にささえあう豊かな地域を目指して

福島市内の全小学校には、児童が安全で安心に通学できるよう「見守りボランティア」が組織されています。今回は、中心市街地で「第四地区見守り隊」として活動されている宮下町会長猪野 衛雄（いの もりお）さんにお話をうかがいました。



○第四地区見守り隊とは？

平成17年末、栃木小一女児殺害事件など全国的に児童が被害者となる事件があり、福島第四小学校から、安全・安心に児童が登下校できるように「見守り」の依頼がありました。

平成18年10月に福島第四小学校PTAが中心となり、社会全体の流れとして、共働きの家庭が増え、下校時だけでも地域で子どもたちを見守ることができればと思いい、「第四地区見守り隊」が正式に発足し、活動が始まりました。

○活動内容は？

宮下町会の役員と宮下町あおば会（老人会）を中心に、下校の時間に合わせ、町内で子どもたちを見守るとともに、声掛けやあいさつをしています。

当番を決めずに都合の付く方が自主的に参加するようにしています。

地域の子どもたちは地域で守るといふ考えから、町内会とおおば会が一体となってお互いに助け合って活動しています。

今では、組織ごとを持っている地域の情報も有効に共有する場となっています。

○嬉しかったことは？

子どもたちと話が出来たようになったということ。私たちが大人から声を掛け、接していけば、子どもたちも安心してあいさつを返してくれます。

始めの2カ月は、あいさつを返してもらえなかったけれど、活動していると、毎日顔を合わせるので、小学生ばかりだけでなく、高校生もにこにこしてあいさつしてくれるようになりました。



▲子どもたちとかわすあいさつが活動のみなもとです。

今では、「ただいま」と自分から言う子どももや、「今日何があったよ」と話しかけてくれる子どももいます。

▶取材を終えて▶

お話をうかがっていると、組織や年齢・性別などを超え、住んでいる人たちが助け合い協力しながら地域を大切に守り仲良

く暮らしている様が目に浮かびました。

毎日活動するのは、大変だろうと思います。それを「嬉しい」とお話される日焼けした笑顔が印象的でした。

核家族化で、いろいろな世代の人と生活することが少なくなり、話す機会も減ってしまった。「子どもたちと話ができる」ということは、子どもたちにとっても、世代を超えた人と話す場ができた、ということだと思えます。

「見守りボランティア」をきっかけに世代を超えて話をするここと、人と人の心のつながりが生まれたのではないのでしょうか。

そして、互いを受入れ、一人ひとりが大切にされることによって、いきいきと暮らせる、より良い地域を築く一歩になるのではないかと感じました。



▲暮らしやすい地域を目指し、日々活動中。



編集委員がいろいろな「ありがとう」について、年齢や職業も幅広い方々に取材しました。

「ありがとう」と感じることは、さまざまでした。

今、私たちは、日頃の忙しさに追われて人に対する思いやりの心や感謝の気持ちを忘れていくことに気づかされました。

「ありがとう」と感じる瞬間は、意外と私たちの身近にあること、そして、普段あまり意識していないことでもその人によっては「ありがとう」と感じてもらえることもわかりました。

小さな「ありがとう」の輪が、人の心をほんわかとさせてくれます。

取材に協力してくださった方々、このしのぶびあを読んでもくださる皆さんに「ありがとう」。

編集

しのびあ編集委員会

伊藤啓子・加藤麻里・佐藤映枝

30号から編集委員になりました。よろしくお願います。

松本 恵

表紙…切絵作家のさとうてるえさんの作品です。

※「しのびあ」は年2回発行。各学習センターなど市の窓口にあります。

また、市のホームページでもご覧いただけます。



福島市総務部男女共同参画センター
ウィズ・もとまち

発行 福島市総務部男女共同参画センター
〒960-8035 福島市本町2番6号 Tel 024-525-3784 Fax 024-522-1528
ホームページ <http://www.city.fukushima.fukushima.jp/>

